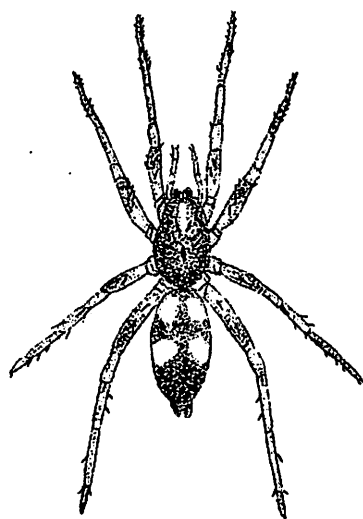


東京蜘蛛談話会会誌

# KISHIDAIA

No. 19



東京蜘蛛談話会

東京都日野市豊田1,896 萱鷗泉方

PHONE : 0425 - 81 - 7128

## 第一回例会に参加して

松 本 誠 治

紀泉閣での懇談会は、入浴後のサツパリと、そしてユツタリとした気分の中で行なわれ、14名がそれぞれ大きな声で、喋りあつた4時間余りであつた。話の内容はあまりに気持がよかつたためか、ほとんど覚えていないが、分類学も外部形態のみでうんぬんすることなく、生活史、細胞学等からも検討しだしてもよいのではないだろうかとか、種とはあくまでも個体群としてとらえなければならないとかいうことを、席上考えていたように思う。翌日の例会は、自己紹介・講演・近況報告・将来の計画・抱負などが次々と進行し(昼食時にも)熱のこもつた会になつた。蜘蛛の話だけの会で、25名も参加した例会の意義は大きく、しかも、兵庫、京都、愛知、長野、東京、埼玉からも参加者のあつたことは、例会の意義を拡大するものと思う。

帰る途中、東京でもこのような会を開きたいと話し合つた。東京蜘蛛談話会があり、会誌も出しているから、メンバーだけが集まつて話をするくらいは、すぐにも実現するのではないだろうか。いや、むしろ実現させねばならないのではないか。会誌を配付しているだけでは会誌発行に直接関係している者はいつも会えるが、他の人とは、30名たらずの会でしかないのに話をしたこともないということと終始してしまふ。東京蜘蛛談話会でこそ、今回の例会のようなものが年に2~3回は必要なのではないだろうか。

集まつている中で、お互いが刺激され、ただ標本を集めるだけでない活動の方向が生れ、会誌の内容もそれにつれて充実してくると思う。例会も講演だけでなく、映画会・標本回覧・スライド映写・採集会などと変化をつけた方が続くであろうし、談話会メンバーだけの集まりに終わらせる必要も全くないと思う。以前、植村先生のお世話で都立城南高校で行なわれたような、東京近辺の人達の出席した会を開きたいものである。

## 第一回蜘蛛例会に思う

小 沢 実 樹

### (一)

『——— 白い美しいかくれ帯で、フアーブル流に言えば網を補強している。(断つておくが、かくれ帯という名称は、それに蜘蛛が身を隠す機能を見ておられる岸田久吉氏の用語である。)その他は———』

以上は、昭和5年発行の岩波文庫「フアーブル昆虫記——くもいろいろ」の巻末に記された、訳者林達夫、山田吉彦両氏の注釈である、そしてこの一文が、私の岸田先生のお名前を知つたはじめてのこととあり、また一昨年までの蜘蛛に関する唯一の手引書であつた。

さて、もう20年以上も前になるが、私が中学生の頃、手近かに見る蜘蛛を集め、なんとか名前を知りたいと思つていた頃のことだが、東京・神田の古本屋に、この初刊の書物はしめつぽく句つていた。それは古本だが、本を手にした私は興奮してしまつた。

### (二)

その後長い間、私は暗中模索で通訳抜きの蜘蛛との会話を続けたが、社会へ出てからは蜘蛛達への  
KISHIDAIA No.19, 1970, Aug.

餌を運ぶ時間も少なくなつてしまつた。が、今年に入つて、書店でふと見たのが、「八木沼健夫著——クモの話」。——

「著者八木沼」？、このお名前は、百科事典のクモの項で末尾に記されていて、同じく別の百科事典で見た（関口）という名前と一語に学生の頃から記憶があつた。

そこで夢中になつて、無礼を忘れ、先生への手紙を書きあげてしまつた。

トンボ返りのように、ご丁寧なお返事と共に、やがて『A T Y P U S』に接した。

### (三)

ときどきしながら、出席した東亜蜘蛛学会第1回例会で、はじめて八木沼先生にお目にかかれ、また幸にも、萱嶋先生にもご面談ができ、のぼせてしまつているうちに、ほしかつた『K I S H I D A I A』を、先に大河内さんからPRされてしまう不覚まで取つてしまつた。大阪での例会の席上、今までの、自分と蜘蛛との生活を想うかべながら、ただ感激してしまつた。

話を伺つていくほどに、すばらしいSPIDER-MANばかりである。私は失礼を知りながら、内心で、八木沼先生には「パンノウヤギクモ」と命名させていただくことにした。

礼儀正しく、まことにご円満にお見うけした萱嶋先生は「エンマンカヤクモ」であり、「チビスキオオクモ」は、小さな蜘蛛がお好きと聞いた、大井先生の俗名である。「なんだろう？」と研究熱心にスライドを映してくださつた「ナンデシヨセングモ」の千国先生。そして、張り終えたばかりの新鮮な網を思わせるヤング・スパイダーの「マツモトクモ」「オオウチクモ」「シンカイクモ」……と。ともかくこんな素晴らしいクモ人間の巣があろうとは、今まで思いもよらず、何か、おとぎの国の夢の宴にでも出席しているかのような気分であつた。

神田の古本屋ではじめて「くも」という文字を見つけて以来二十数年になつたが、例会に出席して素晴らしいクモ人間にお目にかかれたことは、蜘蛛達が見えない糸で私をたぐつていてくれたものだ。

蜘蛛どもよ、ほんとうにありがとう。これからもよろしく。

『東亜蜘蛛学会第1回例会』は8月23日、大阪天王寺で開かれた。当日は25人が参加したが、東京の談話会員では、萱嶋先生をはじめ、新井千秋、福本伸男、権田重雄、石山鉄幸、松本誠治、野戸幸、小野武比古、小野展嗣、小沢実樹、新海栄一、田中穂積、垂水有三の諸氏と私の計14名が参加した。当日は大井先生のあいさつにはじまり、昼の自己紹介をはさんで、10人の講演が行なわれた。談話会員の講演は次の通りであつた。

東京都のアシダカクモについて .....	萱 嶋 泉
房総半島の真正蜘蛛類相 .....	松 本 誠 治
南西諸島の真正クモ類の動物地理 .....	大 河 内 哲 二
最近とれた珍しいクモ .....	新 海 栄 一
クモの歩行 .....	福 本 伸 男

尚、これに先だつて、22日は犬鳴山「紀泉閣」で「クモを語る夕」が開かれ、八木沼先生、中部談話会の須加、村上両氏など14名が集まり一晩クモを語りあうことができた。24日は大阪の田中、垂水、野戸の3氏の案内で東京からの松本、小野両氏それに私の計6人で岩湧山で採集会を行なつた。

万国博覧会の閉幕も近づいてか、かなり混雑した大阪であつたが、久しぶりにクモ屋の楽しさを味わつた3日間であつた。

(大河内 哲 二)

# 大阪「犬鳴山」「岩湧山」採集目録

松本誠治 新海栄一 小野展嗣 大河内哲二

◎ 犬 鳴 山 採 集

1970年8月22日

## I CTENIZIDAE

1. *Ummidia fragaria* (Doenitz) キノボリトタテグモ

## II ULOBORIDAE

2. *Hyptiotes affinis* Boes. et Str. オウギグモ  
 3. *Miagrammopes orientalis* Boes. et Str. マネキグモ  
 4. *Uloborus sybotides* Boes. et Str. カタハリウズグモ

## III LEPTONETIDAE

5. *Leptoneta striata* Oi ヨコフマシラグモ

## IV THERIDIIDAE

6. *Theridion tepidariorum* C. Koch オオヒメグモ  
 7. *Stemmops nipponicus* Yaginuma スネグロオチバヒメグモ

## V LINYPHIDAE

8. *Prolinyphia longipedella* (Boes. et Str.) アシナガサラグモ  
 9. *P. marginata* (C. Koch) シロブチサラグモ

## VI MICRYPHANTIDAE

10. *Solenysa mellottei* Simon アリマネグモ

## VII SYMPHYTOGNATHIDAE

11. *Mysmena jobi* Kraus

## VIII ARGIOPIDAE

12. *Araneus lugbris* (Walckenaer) コゲチヤオニグモ  
 13. *Neoscona scylla* (Karsch) ヤマシロオニグモ  
 14. *N. scylloides* (Boes. et Str.) サツマノミダマシ  
 15. *Cyclosa sedeculata* Karsch ヨツデゴミグモ  
 16. *C. octotuberculata* Karsch ゴミグモ  
 17. *Zilla sachalinensis* (Saito) カラフトオニグモ

## IX TETRAGNATHIDAE

18. *Leucauge magnifica* Yaginuma オオシロカネグモ  
 19. *L. subblanda* Boes. et Str. コシロカネグモ

## X LYCOSIDAE

20. *Pirata procurvus* (Boes. et Str.) チビドクグモ

## XI AGELENIDAE

21. *Agelena limbata* Thorell クサグモ

## XII SALTICIDAE

22. *Boethus sexdentatus* Yaginuma ムツバハエトリ

KISHIDAIA No. 19, 1970, Aug.

23. *Marpissa roemeri* Strand オオハエトリ  
 XIII CTENIDAE  
 24. *Anahita fauna* Karsch シボグモ

◎ 岩 湧 山 採 集

1970年8月24日

I ULOBORIDAE

1. *Miagrammopes orientalis* Boes. et Str. マネキグモ  
 2. *Hyptiotes affinis* Boes. et Str. オウギグモ  
 3. *Uloborus varians* Boes. et Str. ウズグモ

II THERIDIIDAE

4. *Conopistha fissifrons* (O. P. Cambridge) チリイソウロウグモ  
 5. *Rhomphaea sagana* (Doen. et Str.) ヤリグモ  
 6. *Enoplognatha transversifoveata* カレハヒメグモ  
 (Boes. et Str.)  
 7. *Theridion chikunii* Yaginuma パラギヒメグモ  
 8. *T. japonica* Boes. et Str. ヒメグモ  
 9. *Stemmops nipponicus* Yaginuma スネグロオチバヒメグモ

III LINYPHIIDAE

10. *Prolinyphia limbaticella* (Boes. et Str.) フタスジサラグモ  
 11. *P. yunohamensis* (Boes. et Str.) ユノハマサラグモ  
 12. *Neolinyphia paltata* (Wider) ハンモツクサラグモ

IV MICRYPHANTIDAE

13. *Gnathonarium dentatum* (Wider) キダチアカムネグモ  
 14. *Solenysa melloteei* Simon アリマネグモ

V MIMETIDAE

15. *Ero japonica* Boes. et Str. センシヨウグモ

VI UROCTEIDAE

16. *Urocta compactilis* L. Koch ヒラタグモ

VII ARGIOPIDAE

17. *Araneus cucurbitinus* Clerck ハナオニグモ  
 18. *Argiope bruennichii* (Scopoli) ナガコガネグモ  
 19. *A. minuta* Karsch コガタコガネグモ  
 20. *Cyclosa sedeculata* Karsch ヨツデゴミグモ  
 21. *C. octotuberculata* Karsch ゴミグモ  
 22. *Neoscona doenitzi* (Boes. et Str.) トヨウオニグモ  
 23. *N. melloteei* (Simon) ワキグロサツマノミダマシ

VIII TETRAGNATHIDAE

24. *Leucauge magnifica* Yaginuma オオシロカネグモ  
 25. *Tetragnatha praedonia* L. Koch アシナガグモ

IX PISAURIDAE

26. *Dolomedes sulfureus* L. Koch      イオウイロハシリグモ  
 27. *D. saganus* Boes. et Str.      スジアカハシリグモ

X LYCOSIDAE

28. *Pirata procurvus* (Boes. et Str.)      チビドクグモ

XI OXYOPIDAE

29. *Oxyopes sertatus* L. Koch      ササグモ

XII THOMISIDAE

30. *Mismenops tricuspidatus* (Fabricius)      ハナグモ  
 31. *Tmarus piger* (Walckenaer)      トラフカニグモ  
 32. *Oxytate striatipes* L. Koch      ワカバグモ

XIII SALTICIDAE

33. *Boethus sexdentatus* Yaginuma      ムツバハエトリ  
 34. *Carrhotus detritus* Boes. et Str.      ネコハエトリ

XIV CTENIDAE

35. *Anahita fauna* Karsch      シボグモ  
 —— By Tullgren funnel: wet weight 190gr, dry weight 98gr.

THERIDIIDAE

36. *Comaroma maculosum* Oi      ヨロイヒメグモ

THOMISIDAE

37. *Oxyptila decorata* Karsch      キハダカニグモ

CLUBIONIDAE

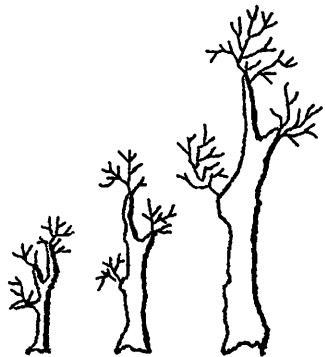
38. *Itatsina praticola* (Boes. et Str.)      イタチグモ

© 河内長野駅採集

1970年8月24日

AMAUROBIIDAE

1. *Titanoeca nipponica* Yaginuma      ヤマトガケジグモ



KISHIDAIA, No. 19, 1970, Aug.

## オナガグモの生態観察 2

—— 餌のとり方について ——

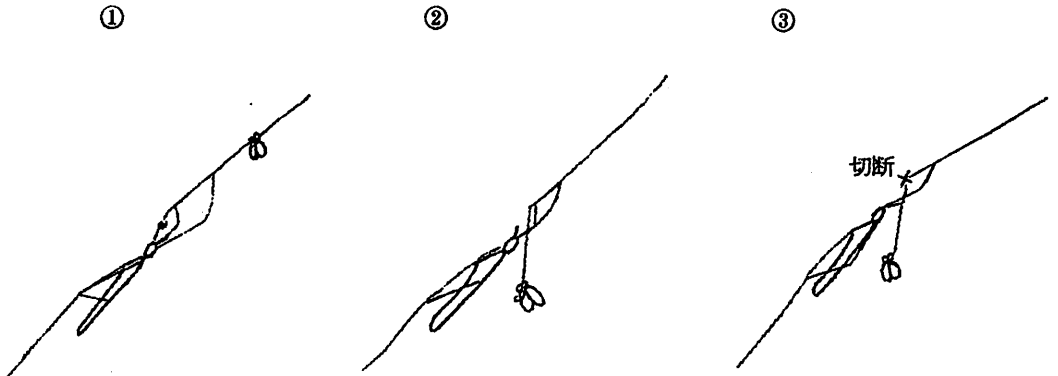
海城学園生物部 高3 大橋幸男 新海 明

オナガグモの餌のとり方については、ATYPUS №s. 33 - 34 に橋本理市氏が報じたのが最初のようなものである。その後ATYPUS № 35 に中平清氏が「橋本(理市)氏と同じような実験を試みたが、橋本氏が観察されたような捕食状況は見られず、普通のクモのそれと変らなかつた」と報じている。

我々は1968年11月景信山での採集会においてオナガグモの網を多数発見し、何気なしにその網にふれてみたところ、どの網にも粘着力がなかつた。しかしながら網の中には食べかすのついているものや、補食中のものまでみかけた。すなわちオナガグモは、この粘着力のない網を何らかの形で利用しているわけである。ではいつたいどのような方法で餌をとるのか。我々はさつそく、オナガグモの雌4頭を採集し、学校へ持ち帰り、まず最初に網にかかたつた餌物のとり方について調べてみることにした。以下はその時の観察結果であつた。

### 〔観察1〕

実験室内にはらせたオナガグモの網にハエをやつてみた。(糸にはまったく粘着力がないので、ハエのハネを切り落としハエの足の先端にある爪を糸にかける。)すると、オナガグモは図①~③のごとくハエに見向きもせず、下に落してしまつた。



この観察は一例のみ(ハエをかけるときの振動でクモが逃げてしまつたり、ハエが暴れたりしてうまく網にかからないので)、はなはだ真実性に乏しいが一応紹介しておくことにする。

### 〔観察2〕

観察1のようにハエ等の昆虫では、糸に全く粘着力がないので具合が悪い。そこで今度はオオヒメグモの幼生をオナガグモの糸にはわせてみることにした。

糸は1本だけで斜めに引かれており、オナガグモは網の上の方にいた。オオヒメグモが糸を伝わつ

て上へ登っていくとオナガグモはその震動(?)で何かが糸にかかった(?)ことに気づき、腹部を餌の方に向けてすばやく第4脚間に粘球のついた糸を張り、それを「サツ」とオオヒメグモに投げかけた。この動作は一度だけとは限らず獲物が動けなくなるまで2度3度と繰り返されることもあつた。オオヒメグモがその糸で動けなくなつた後も、オナガグモはかなり入念にオオヒメグモに糸を巻きつけていた。この動作は他のクモのそれと別に変つたところはみられなかつた。

(観察2と同じ事をこのほかに2度くり返して行なつたが、いずれも上記と同じ行動をとり、捕食した。)

### 〔観察3〕

1969年10月26日の採集会で初めて自然状態でオナガグモの幼生が獲物をとつているところを観察することができた。その時のオナガグモの動作は屋内での観察と全く同じであつた。

——— そこで我々は以上のような観察結果及び現在までの諸文献から考察してオナガグモの餌のとり方は、橋本氏がA TYPUS Nos. 33 - 34で述べておられたごとく、「オナガグモの全く粘球のない糸を、他のクモが伝わつて来て、クモはそれに気付くとすばやく獲物に近づき第4脚間に粘球のついた糸を張り、それを「サツ」と獲物に投げかけて捕食をするのである。」という結論を下しておきたい。

---

KISHIDAIA № 19

1970年8月30日 印刷

1970年8月31日 発行

発行所 東京蜘蛛談話会

〒191 東京都日野市豊田1896 荻嶋 泉方

PHONE 0425(81)7128

---

印刷所 埼玉県身体障害者更生指導所 タイプ孔版科

---